



2 『税金』と『環境』について学びました！ ～鹿児島大学生による出前授業

9月3日（木）と8日（火）に、『税金』と『環境教育』に関する出前授業が行われ、鹿児島大学法文学部の学生が野方小学校と大崎小学校に来校されました。

野方小学校では、6年生17名を対象に行われ、税金が身の回りのどんなことに使われているか、イラストなどを用いて授業を進めていました。

「税金がなかったらどうなると思いますか？」という質問に対して、児童らは「先生の給料が無くなります！」と笑いを誘う場面もありました。

大崎小学校では、5年生52名を対象に『環境連想ゲーム』という手法を用いて、『生ゴミを埋めたら・ポイ捨てしたら・燃やしたら』という状況について考えさせ、環境問題について意見を出し合いました。

また、本町のリサイクル事業についても説明し、自分たちが住んでいる町の魅力を知ることとなりました。その後、ダンボールで肥料を作る『ダンボールコンポストづくり』の体験を行いました。

普段接する機会の少ない大学生との交流は、児童らにとっても充実した内容となったようです。

1 命のバトンをつなごう ～在宅医療推進講演会

8月23日（日）、町中央公民館において、曾於医師会主催の『在宅医療推進講演会』が開催され、約180人の参加がありました。

講演会の前には、曾於地域の医療・介護の多職種で結成した劇団『手つなご』による寸劇『わげ家が一番！』が上演されました。本人の強い希望がかなわず、住み慣れたわが家で家族や友人に見守られながら人生の最期を迎える高齢女性の姿が描かれ、会場のあちこちですすり泣く声が聞かれました。

講演会では、『あたたかな命のバトンリレー』と題してカメラマン國森康弘さんが被災地や紛争地、在宅看取りの現場で撮影した写真を映し出しながら、ひとつひとつに秘められたエピソードを紹介されました。参加者からは、「看取りの大事さを深く考えるようになりました。」「命のバトンタッチ、温かいものを感じました。“死”を色々な角度で見るととても良い機会になりました。」など、たくさんの感想が寄せられました。